

東京都現代俳句協会会報

令和六年度 俳句大会 もう一步の前進

東京都現代俳句協会会長

山本敏倅

東京都現代俳句協会（都区協）は、五年に一度全国規模の俳句大会を実施しています。昨年は創立四十周年俳句大会を無事成功させました。その際この俳句大会をもう一步前進させ、毎年の開催とする提案があり、検討の結果実現の運びとなりました。すでに周囲の近県（神奈川、千葉、多摩、埼玉等）では何年も前から毎年実施されており、会員の一番多い都区協こそ取り組むべきではないのかとの声もあり、踏み切ることにしたのです。

主な趣旨としては①俳句の普及と活性化②会員増強③赤字財政の黒字化が挙げられます。一年間のスケジュールとしては、現在実行し

ている行事で手一杯なので、その一つである秋

季吟行会・新入会員歓迎会をそのまま俳句大会に移行することに。幸いなことに、四十周年の時から参加いただいている全国俳誌協会、荒川区のご協力を、賞という形で引き続き得られ、さらに新しく台東区からの後援も決定しました。

昨年十二月現在、作品募集のチラシの作成に入り、特別選考委員の先生方の快諾を得、後は応募句を待つばかりになっています。本誌に同封の応募用紙による投句、また発展基金へのご協力を切にお願いする次第です。

令和六年九月二十八日（土）に向け、皆様のお力を結集し、都区協のもう一步の前進を形あるものになりたいと思います。

発行人 今野 龍二
発行所 東京都現代俳句協会
〒113-0033 文京区本郷5-3-2-302
長谷川はるか
TEL-FAX 03-3814-1228

東京都現代俳句協会

令和六年度定時総会

一句持寄り句会・懇親会

令和六年度の定時総会及び一句持寄り句会・懇親会を左記の通り開催致します。多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時 令和六年三月九日（土）

総会 午後一時より

句会 午後二時三十分より（投句締切一時）

懇親会 午後五時より

会場 台東区民会館8階 第5会議室
（台東区花川戸二丁目六番五号）

浅草寺二天門近く

TEL 03-3843-1539

・東武線・地下鉄銀座線浅草駅 徒歩約五分

・都営浅草線浅草駅 徒歩約八分

会費 総会〇無料
句会〇千円

懇親会〇五千円

申込締切 二月九日（金）必着

参加申込 〒113-0033

文京区本郷5-3-2-302

長谷川はるか

TEL 03-3814-1228

東京都区現代俳句協会

五十五回秋季吟行会・新入会員歓迎会

令和五年九月九日（土）

於…台東区民会館

実は五十五回をもって「秋季吟行会」は

なくなることになった。今回が最後。しかし、

吟行会を迎える時点ではまだ誰も知らなかった。

令和六年からは「令和六年度俳句大会（新

入会員歓迎会は変わらず）」と生まれ変わるの

だ。名前が変わるだけではなく、まったく違

う俳句大会になる。東京都区現代俳句協会の

全国に向けての俳句大会となる。



さて、その最後の吟行会は前日まで台風の

影響で大荒れの東京だったが、当日は曇りが

ちとは言え、まずまずの天気。もっとも、こ

の吟行会の特徴は「毎年、同じ吟行地（浅草

界隈）・同じ季節」という面白さがあり、天

気次第では駅から句会場へまっすぐ歩くだけ

の吟行という人も多かったかも知れない。

とまれ、新入会員七名を含む、四十二名の

参加を得て、今野龍二幹事長の司会により予

定通りの開催。まず小高沙羅副会長の開会の

言葉、続いて山本敏倅会長による挨拶、松澤

雅世常任顧問による挨拶。引き続き、長谷川

はるか総務部長から新入会員の紹介がなされ

た。新入会員一人ひとりから、自己紹介・抱

負が述べられたのだが、通り一遍、形だけの

抱負ではなく、みな具体的にしっかりと述べら

れたのに、筆者のみならず、多くの会員が感

心していた。引き続き、記念品贈呈、写真撮

影。その後、役員の紹介を経て、幹事長の講

話「浅草今昔物語」第三弾。その間、出句さ

れた俳句は清記されており、句稿の配布・選

句。川崎果連幹事、石口りんご幹事による披露。

作者名が分かったところで早速、特別選者による

講評。その間に別室では点盛り作業がな

され、結果が出ると、いよいよ栗原かつ代事

業部長により成績発表。上位二十位に賞品授

与。宮川夏組織部長による閉会の挨拶。三時

間四十五分、予定通りのお開きとなった。

一昨年、昨年とコロナ禍のため中止となっ

た懇親会を開催。中内火星広報部長の司会に

より、こちらも予定通りスタート。瀬藤芳郎

企画部長より開会の言葉、そして空腹と喉の

渇きで急かされるように松田ひろむ顧問によ

る乾杯のご発声。少し潤ったところで、佐怒

賀正美副会長には、ゆつくりと挨拶をいただき、

歓談に。途中、櫻木美保子Dブロック幹

事長、高橋透水Cブロック代表から、近々に

控えている吟行会の案内があり、また新しく

始まる「ビッグバン通信句会」の案内も話さ

れた。一つの吟行会は終わったが、都区協の

吟行会はまだまた続く。



山本敏倅会長と新入会員の皆さん。左から見目千絵氏、小山園子氏、橋本牧人氏、会長、野上きよみ氏、高木マキ子氏、早川厚氏、水村洋子氏

そして幹事長による閉会の挨拶で開きに。
佳き一日であった。

《新入会員作品》

担ぎ肝臓袈裟から覗く益の僧

早川 厚

重陽や鬼平忍ぶ待乳山

野上きよみ

観音を守る銀杏や震災忌

水村 洋子

白粉に占拠されたる二十坪

高木マキ子

秋時雨句の種子探す浅草寺

小山 園子

レイトシヨ一了へて眩しき世道

橋本 牧人

原色をくぐり浅草花木樞

見目 千絵

担ぎ肝臓袈裟から覗く益の僧

早川 厚

小高沙羅副会長 特選

櫻木美保子

台風のしつぽに触れる雷門

山本 敏倅

今野龍二幹事長 特選

山本 敏倅

長月をはみ出す人形焼の館

松田ひろむ

今村たかし副幹事長 特選

松田ひろむ

菊酒や母の浅草ぶらぶら記

横山 小鼓

松澤雅世常任顧問 特選

横山 小鼓

雁の便仁丹塔が見えたころ

今野 龍二

松田ひろむ顧問 特選

今野 龍二

伝法な女ばかりが走り蕎麦

今野 龍二

青木栄子監査 特選

石口りんご

9重陽や鬼平忍ぶ待乳山

野上きよみ

10秋澄んで仲見世通りの多色刷

石口りんご

《参加作品》(高点二十句)

1 菊酒や母の浅草ぶらぶら記

松田ひろむ

2 露の世の翻訳みくじ売れまくる

川崎 果連

3 長月をはみ出す人形焼の館

山本 敏倅

4 台風のしつぽに触れる雷門

櫻木美保子

5 鯛雲君居ればゆく神合バ一

横山 小鼓

6 墨堤に人影秋は一步づつ

今村たかし

7 足踏みの秋を待たせる仁王の手

讃岐 幸江

8 色物となりて秋めく寄席囃子

広田 輝子

9 重陽や鬼平忍ぶ待乳山

野上きよみ

10 秋澄んで仲見世通りの多色刷

石口りんご



11 黍団子風に多言語散り散りに 宮川 夏
12 秋天にスカイツリーの高からず

13 武器のなき未来図いまだ雁渡し

石口 榮

14 今生のどかと提灯野分雲

鈴木 光子

15 香煙をむせる程あび鯛雲

中内 火星

16 爽やかや阿弥陀如来の手の窪み

江原 玲子

17 伝法な女ばかりが走り蕎麦

磯部 薫子

18 たて横に人行く浅草野分あと

今野 龍二

19 浅草の秋の風鈴鳴る方へ

青木 栄子

20 担ぎ胼胝袈裟から覗く盆の僧

小高 沙羅

《以下順不同》

重陽や歳を重ねて句の若し

早川 厚

秋愁を一転せしむ観覧車

高橋 透水

国籍のバザールであり鳩の秋

豊島月舟斎

浅草を秋簾越し蕎麦啜る

白石 正人

観音を守る銀杏や震災忌

佐怒賀正美

ちよつと濃きホッピー頼む秋燕
香煙の前頭葉へ入る身かな
とこしへに秘佛解かれず秋霞
原色をくぐり浅草花木種
白粉に占拠されたる二十坪
秋時雨句の種子探す浅草寺
秋雨の痕跡三匠句碑の黙
秋高しそろばん店と浅草寺
レイトショールへて眩しき芒道
雷門秋暑うじやうじや待合せ
堪えがたきを堪えてのち涼新た
六三四なるツリーにかけれる人道雲
台風一過雷おこし佳しと咬む
二の腕に雷神を彫る秋風
浅草はまるで外国菊の酒
浅草に秋の風鈴狐面
鳳凰の雲秋の寺より離る
鋤柄 杉太
山崎 百花
松澤 雅世
見目 千絵
高木マキ子
小山 園子
榎並 恵那
渡邊すみれ
橋本 牧人
栗原かつ代
瀬藤 芳郎
大山実知子
北村真貴子
ダイゴ鉄哉
山中 裕子
長谷川はるか
五十嵐秀山
(栗原かつ代記)

Dブロック研修吟行会

令和五年十月九日（スポーツの日）

於…区立石神井公園ふるさと文化館

スポーツの日は一年で一番晴天の日が多いということ、この日がDブロックの吟行会と決められました。それから十年以上経ちます。予想通りの晴天続きでしたが、今回初めて雨の吟行会になりました。気温も急激に下が

り二十度以下です。当日、家を出るときは、「何人の欠席者が出るだろう」と寒い雨の中、句会場の区立石神井公園ふるさと文化館に急ぎました。

蓋が開いてみれば、杞憂でした。この悪天候ですから、欠席者は出ましたが、思いもかけず初めての方たち四名に参加していただきました。今回の参加者は四十四名です。

吟行地石神井公園は色んな魅力があります。中でも歴史的背景、太田道灌に滅ばされた豊島氏の城跡と照姫伝説は有名です。他にも武蔵野の自然豊かな地で、お花見、紅葉狩りはもちろん、沼沢植物群落は国の天然記念物、

日本の音風景百選にも選ばれています。又、かつて文学者の集った地としても知られています。今回は高浜虚子とホトトギスの方たちの吟行地、それに檀一雄、坂口安吾と太宰治など無頼派の集った石神井ホテル跡近辺を主に回りました。

石神井公園駅に10時集合。それぞれが傘を傾け、雨の吟行がはじまります。雨粒をいっぱいつけた力芝に迎えられました。今回の『日本の音風景』は秋雨の音のようです。

雨の吟行はたいへんでしたが、雨の中でしか見られない景色がありました。石神井公園・三宝寺池の色んな面が詠まれ、個性豊かな素敵な俳句、総数八十八句が揃いました。

佐怒賀正美副会長の講話「現代俳句の新たな試み」はマブソン青眼氏の句集『妖精女王マブの洞窟』をレジュメとし、これからの俳句のひとつの方向性を考えることが出来ました。続い

て選句・披露とテンポよく進み、心地よい緊張のなか句会が進んで行きました。

俳句会の帰り際や懇親会の後には「楽しかったです」と、何人かの方から声を掛けていただきました。外は荒天でしたが、句会場は青空が覗いていたようです。

ご参加いただいた四十四名の皆様、会の進行に携わった皆様、深く感謝申し上げます。

《特別選者・特選句》

山本敏倅都区協会長 特選

秋森の森無頼派のおのまとへ

栗原かつ代

佐怒賀正美都区協副会長 特選

雨降って美男葛でいられない

中内 火星

今野龍二都区協幹事長 特選

スカツと晴れた秋だった夢だった

中内 火星

松田ひろむ都区協顧問 特選

雨の日の小股歩きに木の実落つ

今村たかし

今村たかしDブロック代表 特選

秋雨に虚子の一句が見え隠れ

小高 沙羅

《参加作品》高占順

1雨降って美男葛でいられない

中内 火星

2雨の日は雨の音して木の実落つ

広田 輝子

3 方針はないが団栗止まらな	増田 萌子	聖衣なる大理石像秋深む	野上きよみ
4 団栗の転がらぬ日の墮落論	栗原かつ代	三宝寺池や姫の化身の秋の蝶	亦勝 文
5 雨の日の小股歩きに木の実落つ	今村たかし	容赦なく降る秋霖や保護猫来	福原 郁
6 烏瓜水のしたたる思考力	江原 玲子	揺れる蘆文士は群れる三宝寺	見目 千絵
7 一族の絶えて石神井草の絮	今野 龍二	城跡の残る茶店の秋時雨	大山実知子
8 文人の魂か十月の睡蓮	赤澤 敬子	新蕎麦の「新」の青墨おろし蕎麦	松田ひろむ
9 火宅の火借りて団栗炒り上げむ	佐怒賀正美	白露のひとつぶ美姫の碑の余白	豊島月舟斎
10 開店は夜です虫のレストラン	石口 榮	文士らの集いしホテル萩の雨	宮川 夏
11 秋雨に虚子の一句が見え隠れ	小高 沙羅	秋雨や外来種駆除の網重し	小山 園子
12 メタセコイアに背に秋冷の垂直に	鈴木 光子	どんぐりと遊べ照姫もう泣くな	高橋 透水
13 枯葦の雨枯葦に落ちつつく	山城千恵子	オーディションを射とめ照姫今年酒	椎谷 もも
14 秋草をつつむ無頼な雨の音	櫻木美保子	車道分け都会の鴨の小さき群	永野 順子
15 佇みてかりがね寒きホテル跡	白石 正人	かくまでに秋の行楽雨をんな	佐藤 道子
16 無頼派もどんぐりの道柔らかに	高矢 実来	残る蚊めついてくるなと言ったのに	
17 太宰坂口檀の遊び場小鳥くる	安原南海子	同心円消えゆく涯は蘆の花	石口りんこ
18 漂泊の人の背を打つ秋の雨	ダイゴ鉄哉	文人のかつてを案内秋闌けぬ	早川 厚
19 姫塚や尻まで濡れる秋時雨	川崎 果連	照姫の無念いにしえ十三夜	五十嵐秀山
20 考へる果ては無なりき蘆の花	山崎 百花	城跡の戦のはなし萩の声	磯部 薫子
(以下順不同)		水陰の何を探すや小鳥二羽	上田 みの
会場まで案内します水引草	白石みずき	木道の優しき秋や三宝池	大島有加里
秋寒し百メートルのプール跡	瀬藤 芳郎	秋時雨手摺りの付いた太鼓橋	中山えみ子
秋雨のここの歩幅は四分音符	山本 敏倅		讃岐 幸江

(櫻木美保子記)

2024年度 都区協初心者講座 受講者募集

於：現代俳句協会本部図書館

前期 (4月～6月の第2土曜日)

4月13日、5月11日、6月8日の

13時30分～16時30分

講師：高橋透水

(現代俳句オープンカレッジ講師)

- 2句持ち込み

後期 (7月～9月の第2土曜日)

7月13日、8月10日、9月14日の

13時30分～16時30分

講師：川崎果連

(現代俳句オープンカレッジ講師)

- 2句事前投句

受講料：1期3000円

申込先：栗原かつ代 TEL090-4383-5875

知人友人にお勧めくださいますようお願いいたします。

東京都現代俳句協会

令和6年度俳句大会・新入会員歓迎会

期 日 令和6年9月28日(土) 午後1時より

場 所 台東区民会館8階 第2会議室

俳句大会表彰式

講話 講師 東京都現代俳句協会幹事長

「瓊玲」代表 今野龍二先生

演題 「浅草今昔物語」

新入会員紹介・一句持寄り句会

東京都現代俳句協会令和6年度俳句大会

作品募集

●会員外の投句歓迎。

□応募規定 二句一組 一、〇〇〇円

何組でも可・新作未発表作品に限る。

前書き不可・所定用紙(コピー可)

または二〇〇字詰原稿用紙使用。

住所、電話番号、姓号を明記。

出句料は出句と同時に納入。

(小為替の受取人欄は無記入のこと)

□送り先 〒167-0053

東京都杉並区西荻南4-18-11

磯部薫子方

都区協令和6年度俳句大会係

□締切 令和6年6月末日

当日消印有効

□会費 一句持寄り句会参加費千円

懇親会五千円

□発表 大会席上および都区協会報

投句者には作品集進呈

□表彰 現代俳句協会会長賞・東京

都区現代俳句協会会長賞・全国俳誌協

会賞・俳句のまちあらかわ賞・台東区

あしたの俳句賞・秀逸賞・佳作賞

★応募規定に反した場合は発表後でも

入賞を取り消すことがあります。

東京都現代俳句協会

発展基金募集について

当協会の円滑充実した事業活動運営のため、発展基金を募集いたします。

会員各位におかれましては、左記の要領にてご協力賜りますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

一口一〇〇〇円(何口でも結構です)

都区協現代俳句協会会長 山本 敏倅

振込番号

001105539619

加入者名 東京都現代俳句協会

*同封の振替用紙をご使用ください。

*ネット振込み利用可。

郵便振替払込受領証にて領収書に代えさせていただきます。

基金担当 石口 榮

令和五年発展基金寄付者芳名

(九月一日〜十一月三十日分まで・敬称略・順不同)

ご支援ご協力を感謝申し上げます。

五口 坂本 君江

二口 前田 友彦

第三十四回高田馬場「秋」句会報

令和五年十月三日（火）

兼題「鵲鴒」・席題「扉」

連日猛暑の続く中、当日は二十七・三度。少し過ごしやすくなりほっと致しました。今回は三十二名の方に参加していただきました。

（結果発表）

1 少年の心に扉秋風鈴 江原 玲子
 2 鵲鴒や染屋の残る神田川 高橋 透水
 3 核の文字紙面にいくつ石叩き 赤澤 敬子
 4 鵲鴒や動体視力まだいける 石口 榮
 5 木枯しや小屋の扉へ釘を打ち 安藤 草太

（以下順不同）

八十の扉軽秋日和 相沢 幹代
 私の季節秋の扉が開いたから 小高 沙羅
 永き夜の記憶の扉は半開き 中本 勝美
 木漏れ日の欠片集める石叩き 広田 輝子
 鵲鴒は風のワルツに乗ってくる 白石みずき
 鵲鴒や地球叩いて明るうす 松澤 雅世
 チャップリンの後ろ姿や石叩き 青木 栄子

求愛は灰になるまで石叩
 秋風の小さな扉猫のため
 男には男の悩み石叩き

扉を開けて甲斐の光と蛇笏の忌
 蜻蛉のくぐる扉やボヘミアン

扉の奥の亡夫のスーツ秋の声
 鵲鴒の走り続ける孤独あり

溪流の要の位置や石たたき
 商談は短くいこう石叩

鵲鴒の渡る橋ならついて行く
 神無月門扉を閉ざす隣国は

鵲鴒や房事はるかに遠のきて
 ふたたびの旅の扉よ秋桜

石たたき無音の水上バス乗り場
 鵲鴒の音にまぎれて火の音符

天高く地獄の門扉かく閉づ
 鵲鴒やボールモリーア聴く川辺

大早の扉対角線の夫
 新涼や回転ドアで前世へ

鵲鴒のいそいそ夜はまだ浅い
 今回も素晴らしい句が沢山そろいました。

感謝申し上げます。

（宮川 夏記）

川崎 果連

讃岐 幸江

今野 龍二

蓮尾 碩才

見目 千絵

鈴木 光子

櫻木美保子

上野 英一

宮川 夏

長谷川はるか

ダイゴ鉄哉

白石 正人

北村真貴子

高矢 実来

山本 敏倅

山崎 百花

坂本 君江

大橋 愛子

磯部 薫子

松田ひろむ

高田馬場「春」句会のご案内

日時 令和六年四月二日（火）

午後十二時半受付開始

会費 千円

場所 JR高田馬場駅前Fビル8階

兼題 所 兼題「桜」

句会内容 二句投句・互選六句内一句特選

参加申込 宮川夏（定員三十名）

TEL 080-3452-2577

Fax 03-3333-9841

（ご自分の氏名をお書き添えください）

編集後記

▼明けましておめでとうございます。昨今は「明ける」一度にコロナに戦争と、いいことがない。身近では物価高ラッシュ。てことでリユース流行り。服に鞆、小物類。その浮いたお金で外食や旅行とか。いつそ外食もリユース？想像はつくが、旅行のリユースって何だろう。（火星）

広報部・編集室

〒150-0013 渋谷区恵比寿

二一三三―五二〇二 中内火星方

TEL・FAX 〇三三四四〇―四四七九

Eメール ham@mx3.ttcn.ne.jp